

# 小特集

## 日本のまちづくり 関西からの新しい風 —未来を担うまちづくりを考える—

Trial about "Machizukuri" for the future by Kansai region

編集企画担当：谷口 幸治、名越 聖子、松島 格也

### 2

020年の東京オリンピック開催を控え、首都東京における再開発などの都市建設が進んでいく一方、地方都市の多くがまちづくりに苦戦している中で、人口減少の推計から地方消滅といった言葉が衝撃を与えている。こういった中で今後のまちづくり、地域づくりをどのように進めていくかが大きな課題となっている。

都市づくりという意味では、東京を中心とする首都圏の都市づくりが先進的であるが、1200年以上の歴史のある京都や商人のまち大阪、みなど神戸の三都で代表される関西において、大学、地方公共団体、NPOといったさまざまなセクションが連携してまちづくりを行うという新たな風が現在吹いている。本小特集では、関西における新たなまちづくりの取組みや工夫について、『連携』をキーワードとして紹介する。

はじめに、民俗学や地理学のバックグラウンドをおもちで、精力的に関西のまちづくりに携わっておられる森栗茂一氏に、まちづくりに必要な要素と人材育成の方法などについてうかがっ

た。コミュニケーションデザイナーとイマジェーション養成が重要という同氏の主張は、これからのまちづくりを考える上で大切な視点である。

つづいて、関西のまちづくりで活躍中の4氏による取組みを紹介する。まず稲田氏より、さまざまなバックグラウンドをもつ方が連携して地域資源を有効活用したまちづくりについて考える取組みについて紹介していただいた。そのあと、泉氏からは水辺空間を活かした官民連携による水都大阪の取組みについて、植松氏からは地域連携によるエリアマネジメント組織を活用したグランフロント大阪について、それぞれ、中心となって運営した立場から紹介していただいた。最後に巽氏から、住民主体による「街づくり」の事例と、推進するにあたって行政の関わり方の重要性について述べていただいた。

本小特集を契機として、関西でいろいろな「おもろい」まちづくりが進んでおり、さまざまな立場の関係者がさまざまな形で連携して実行することの重要性を再認識していただければ幸いである。